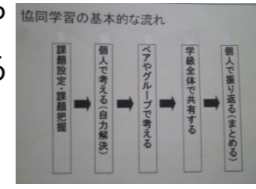


※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。


<b>エントリー学校名：広島県 広島市立五月が丘小学校</b>
<b>活動名：</b> 自己肯定感を育てる取組 全職員で取り組む自己肯定感の育成
<b>解決すべき課題：</b> 本校の学校評価アンケートでは、「誰とでも協力して活動している。」の項目で肯定的な評価をしている児童は約90%である。しかし、「自分の気持ちや考えを、みんなや相手に話すことができる。」という項目では25%、「自分の良いところを知っている。」の項目では33%の児童が否定的な評価をしている。 このことから、本校の児童は集団への帰属意識はあるものの、意欲的に活動したり、良好な人間関係を築いたりするために必要な自己肯定感に課題があると考えられる。
<b>目標・方針：</b> 児童相互のつながりをさらに深め、その中で自己肯定感を高めていくために、組織的・計画的に協同的な活動を設定するように努めていくことが必要と考える。また、その活動においては、児童が自己を見つめ、自分に必要な目標を立て活動し、活動の終わりには振り返りの場を設定するとともに、次の活動に生かすことができるようにする。教員と児童がPDCAを繰り返し行いながらこのような取組を重ねることにより、児童の自己肯定感や充実感を高めることができるのではないかと考える。
<b>活動内容：</b> ① 教員が継続して取り組むための組織づくり(資料①) ・校務分掌に「五月っ子なかよしプログラム」を位置づけ、職員研修を行う。児童相互をつなぐ取組を仕組むために必要な方法や教員の働きかけなどを共通理解する場を設定する。また、全職員でそれぞれの児童の実態に合った声掛けや支援ができるようにするために、児童理解の場を設定する。 ② 全校で取り組むグループワークトレーニング(資料②) ・全体活動計画を示し、エクササイズ資料を用意する。各学年の取組や新しい活動を紹介・交流する。 ③ 縦割り班活動、児童会活動など、異年齢集団で活動できる場を設定する。(資料③) ・児童が目標をもって活動するための振り返りカードを作成し、それを基に児童がPDCAを行いながら活動できるように仕組む。(高学年を中心とした取組)
<b>活動の成果：</b> ・児童の振り返りの中に自己に対する肯定的な感想が増え、次の活動に対して意欲的に取り組もうとするようになってきた。また、活動の中で自分の良いところを発見することができるようになってきた。 ・自分の感情のままに行動する児童が減り、高学年の児童は自分の立場を自覚して下学年に対してどのように接したらよいか、その場その場で考え、実行する児童が増えてきた。 ・異学年トラブルが昨年度よりも減ってきている。
<b>アピールポイント(アイデアや工夫)：</b> ・教員の共通理解。(活動目標や意義、児童理解など) ・活動に対して、児童が各自の目標をもって活動すること。 ・異年齢集団による活動を効果的に行うこと。

**共通理解の場(資料①)**  
 ・職員研修を行い、協同学習の良さやどのように進めていくと良質な活動になるか等の指導のポイントを、演習を通して具体的に示すことができた。



**児童理解の場(資料①)**  
 ・実態報告会(年に2回)  
 ・職員暮会での気になる児童の報告  
 →学年交流や校内で当該児童に出会ったとき、児童の実態に合った声掛けや支援ができる。また、児童の様子を見取り、肯定的な評価をすることができる。

**グループワークトレーニング(資料②)**




私のカードにはこう書いてあるよ。

(児童の感想)  
 ・みんなが言うことで分かることが増え、完成させることができた。1人ではできなかった。  
 ・みんなが持っている情報を伝え合い、みんなで考えて完成させることができて嬉しかった。人の意見をしっかり聞くことが大切だと分かった。


(教員の感想)  
 ・情報を正しく伝える、正しく聞き取ることが、コミュニケーションをとるときに大切であることを、児童に気付かせることができた。次は、集団の中での自分の良さを感じさせる手立てを仕組んでいきたい。

**秋のお楽しみ会【児童会活動】(資料③)**

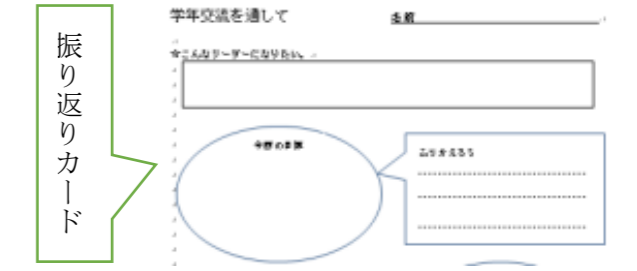


3年生以上のクラスが「靴飛ばし」や「空き缶積み」などのゲームを企画・運営し、全校で交流する。(今年度は中止)

**学年交流(資料③)**




全学年が〇～〇人の縦割り班に分かれ、「氷おに」や「ハンカチ落とし」などを楽しむ。



(児童の振り返りより)  
 ・今の自分は自分のことが精一杯で、人のことを考えることができない。学年交流を通して、「自分のことではなく、人のことを一番に考えられる6年生」になりたい。そのために、第1回の活動を通して、自分の意見を伝えるだけでなく、人の意見をしっかり受け止めた。→最高学年としての「なりたい自分」を目指して、活動ごとにめあてをもって活動することができた。達成するごとに自信(自己肯定感)つながっているようであった。

**1・2年学校たんけん**



1年生のお手本になって、校長室の中のことを教えてあげるよ。

**1・6年 平和学習・掃除のお手伝い**